

平成 30 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議録

日 時：平成 30 年 8 月 31 日（金） 午後 2 時から

場 所：庁議室（第一庁舎 5 階）

出席者：委 員/ 三浦会長、園原副会長、上野委員、碓井委員、金井委員、白石委員、滝沢委員、藤森委員、本間委員、増山委員、柳沢委員、山浦委員、山口委員、長野市/ 倉石総務部長、西島企画政策部長、清水財政部長、増田地域・市民生活部長、竹内保健福祉部長、北原こども未来部長、井上環境部長、高橋商工観光部長、倉島文化スポーツ振興部長、横地農林部長、金井建設部長、羽片都市整備部長、上杉会計局長、松本教育次長（行政）、永井教育次長（教育）、戸谷上下水道局長、根岸消防局長、島田危機管理防災監
事務局/（企画課） 日台課長、佐久間補佐、宮坂係長、山口主査、白澤主査、小林（清）主査、小林（桜）主事
（人口増推進課）長谷部課長、関谷補佐、永岩主査、飛澤主査

1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これより今年度 2 回目の長野市総合計画審議会を開会いたします。企画課の佐久間です。よろしくお願いいたします。

本日の資料は、事前にお送りいたしました、次第、資料 1－1 第五次長野市総合計画 前期基本計画のアンケート指標、資料 1－2 前期基本計画の統計指標、資料 1－3 前期基本計画 進捗状況、資料 2－1 長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 29 年度進捗状況及び中間評価（概要版）、資料 2－2 総合戦略 平成 29 年度進捗状況及び中間評価 となりますので、ご確認をお願いします。

また、本日は有澤委員、池田委員、塚原委員、堀江委員からご欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

それでは三浦会長からごあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

（三浦会長）

皆さんこんにちは。

本日も皆さんの貴重なご意見をいただきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

3 議事

(事務局)

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、三浦会長にお願いします。

(三浦会長)

それでは、議事に入ります。

議事の(1)第五次総合計画 前期基本計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

企画課の日台です。よろしくお願ひいたします。29年度のアンケート指標、統計指標、前期基本計画の進捗状況について説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

我々が策定しました第五次総合計画につきまして、計画期間がスタートしてから1年が経過しました。ただいま、事務局から、いくつかの施策について前期基本計画の進捗状況を把握するためのアンケート指標と統計指標の実績について、平成29年度の状況をご報告いただくとともに、その結果を分析し、課題の洗い出しと今後の方針を検討した内容を説明いただきました。

アンケート指標の実績値が5ポイント以上低下している施策については、庁内でも集中的に議論を行い、今後の方針を検討されたとのことでした。

事務局からの説明をお聞きし、また、資料をご覧いただきまして、総合計画で掲げている目標を実現するため、指標の実績値が低下している施策や各委員の皆様が専門とされている施策などにつきまして、「今後、もっとういふことに取り組むべきではないか」といったご提案や、ご意見ご質問をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(金井委員)

アンケート指標は定時定点の観測の結果ということによろしいですか。

(事務局)

アンケート指標は 5000 人の市民の皆さんからいただいたデータを基にしています。定点観測のモニターの意見については、個別の意見として今回の二次評価の中に使っています。

(金井委員)

では、ここではランダムな回答ということですか。

(事務局)

そのとおりです。

(金井委員)

回答にフリーアンサーはなかったのですか。

(事務局)

自由記載ということだと思いましたが、そのようなものはございませんでした。

(金井委員)

資料にある課題というのは、アンケートの結果を反映させたものではなく、庁内の話し合いで出したものですか。

(事務局)

アンケート指標も市民の皆さんの声として参考にしつつ、統計指標も見ながら作成しています。

(金井委員)

市民の声も入っているということですが、先ほどの説明の中では、市民の声というよりも、庁内の各担当からの課題という印象を受けました。もう少し市民目線の見方をしたほうがいいのではないかと思います。

(事務局)

参考にさせていただきます。

(金井委員)

子どもに関するアンケートの実績値が落ちているという説明がありましたが、先日私

の娘が3人目の子どもを出産したところ、3月中旬に4月からは上の子を保育園では預かれないと言われました。産休中は家にいるからという理由でした。保育園は働ける母親を作るだけで、保育園で預かっている園児ファーストではないと感じました。園児を大切にしていないという印象でした。幸せ実感都市ということであれば、もっと子育てをしやすい環境を作ることが前提にあるべきではないかと思います。今のままでは子どもを産んだ人が損をしています。長野市は子育てしやすいまちだと、実感してもらえるようにしていただきたいと思います。実際、娘は引越しも検討していますが、そのような市政でいいのでしょうか。

(北原こども未来部長)

保育園については一定のルールの中で優先順位をつけてお預かりしています。ご批判もありますが、保育に欠ける子どもを優先させていただきたいと思います。ただ、せっかく3人のお子さんに恵まれて幸せな中、水を差してしまったことを大変申し訳なく思います。受け入れ態勢については、今後も最善策を考えてまいりたいと思います。

(金井委員)

厳しい言い方をしてしまいましたが、その保育園は園児があふれていて定員いっぱいというわけではありません。人数も少なく先生も園児を増やしたいと言っている中で預かれないと言われたので納得できませんでした。ルールはわかりますが、長野市に待機児童は何人いますか。臨機応変にやっていただきたいと思います。

(三浦会長)

わたしにも孫が何人かいますが、保育園に入ったとたん病気になりましてしばらく休んでいたら、待っているお子さんがいるから保育園を辞めてほしいと言われて、辞めざるを得なかったことがありました。悩んでいる親は多いと思いますので、貴重なご意見だと思います。

(碓井委員)

学外の共同研究で、第二子を産もうとしている母親を対象に調査をしています。行政支援が必要ということもありますが、一番は金井委員のご意見にもありました、親のニーズにあった支え合いの仕組みづくりが重要であると感じました。それを踏まえて、長野の自然を活かして自然体験をすることと、第二子の壁を打ち破ることに関係性はないだろうかということを調査したところ、量的な調査結果なのでこれから検証する必要がありますが、母親の自然体験が育児観や母親の育児満足度に影響していることが分かりました。親への支援の段階で、第二子を産もうとしているときの親の環境を考えたときに幼稚園や保育園は重要な要素になりますが、質の補てんを考えたときに見落

としていることがたくさんあると思います。育児満足度には、親に働かせるだけの支援ではなくて子どもの幸せを考えた支援や、親が子どもと同じ時間を共有することの価値を幼稚園や保育園が伝えていくような子どもファーストに変えていかないと親の育児満足度は高まらないし、第二子以降も産みたいという気持ちにならないと思います。長野市ならではの自然体験は結婚への意欲も高められるというデータもあります。

(山浦委員)

特殊詐欺について、広報紙などでは活字ではなく漫画でお年寄りにもわかりやすく伝えるようにしてほしいと思います。

子育ての問題については、母子家庭の方の話聞く機会がありますが、中学生の親でも仕事を簡単に休むことができます。児童手当があるから休んでもいい、ということになってしまっているのではないかと思います。どのような基準で児童手当の金額を決めているのですか。

(北原こども未来部長)

児童手当は国の法律で決まっています。

(増田地域・市民生活部長)

特殊詐欺については、地域の民生委員の方にお問い合わせしたり、警察も力を入れてやっているの、今後も国や県と協力しながら進めてまいりたいと思います。ご提案いただいた、漫画で伝えるということについては、検討したいと思います。

(上野委員)

先ほどから子育てや育児環境について話題が出ると、幼稚園と保育園のことばかりでしたが、私にも小学生と中学生の子どもがいて、夏休みが短いということをいつも感じています。自分が子どものころから違和感がありました。寒中休みがあるからと言われていますが、今はなくなっています。県の教育委員会を見ても、スキー教室やスケート教室などの課外授業が多いから、というあいまいな理由です。長野は涼しいイメージがありますが、今年は酷暑でした。それでも学校などの施設は冷房が完備されていないし、子どもファーストということにはなっていないと思います。幸せ実感都市を目指すには、親の勤務状況や家庭環境だけでなく、学校の設備についても整えていく必要があると思います。

(永井教育次長)

夏休みの期間については考えていく必要があります。確かにこの暑さの中、学校で勉強するのはどうかと思います。反面、保護者にとって夏休みの期間は家に子どもがいる

ことで、働きにくいという声も学校に届いていますし、学校が休みの間は子どもプラザで預かっていますが、そちらの施設の受け入れ体制の整備もする必要があるので簡単に移行することはできません。しかし長野市としても課題として受け止めていますので、バランスを取りながら考えていきたいと思えます。

(上野委員)

長野駅前で商売しているので、夏休み期間の賑わいは目に見えて分かります。長野は都会と違って、3世代で家族という意識が強いので、子どもの夏休み期間は、お年寄りも駅前に出てきています。それがお盆を過ぎるとぼったり人がいなくなってしまう。経済的な面の影響もあると思えます。

(三浦会長)

冬休みもそれほど長くないと思えます。

(永井教育次長)

傾向として、この1、2年は夏休み期間を延ばしています。年間のサイクルは都道府県によって違いますが、高校入試の時期や諸々の事情で年間の予定を作っています。長野県の特徴としては、春休みが長いということが言えると思えます。様々な事情を総合的に見て、検討していく時期に来ていると思えます。

(三浦会長)

様々なご意見がありましたが、事務局にはご検討いただきたいと思えます。

では議事(2)の、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間評価について、事務局から説明してください。

(事務局)

人口増推進課の長谷部です。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況と中間評価について説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

総合戦略につきましては、平成28年2月に策定され、計画期間の5年間の中間を過ぎたことから、進捗状況の確認に合わせて中間評価を実施したとのこと。

残りの計画期間内での目標達成に向け、若い世代を呼び込む取組の更なる強化や、住みやすい地域としての魅力を高めるための息の長い取組が必要となっているとの説明がございましたが、ご意見等ありましたらお願いします。

(山口委員)

地域おこし協力隊について、私の住んでいる鬼無里にも夫婦で2名の方が来てくれました。イベントや漬物の会社を立ち上げた時には尽力いただきました。その活動が終わった時に、鬼無里には就業する場がないということで、今は長野でクレープの会社を立ち上げています。今は大阪から来た協力隊の方が鬼無里のえごまのプロジェクトで活躍していますが、30年度で市の事業としてのえごまのプロジェクトは終わり、自主運営になります。厳しい環境になるとは思いますが、それぞれ努力をしているところです。現在の協力隊の方が続けてやっていただければいいのですが、市からの給与が無くなった時に、現実問題として生活していけるかという不安があるので、協力隊の方にもお願いすることができないでいます。ワイン用のブドウ栽培の支援や、ゲストハウスの支援ということも資料にあります。どのような形で支援をするのですか。

(増田地域・市民生活部長)

地域ごとにミッションや地域おこし協力隊員の活動内容は異なっています。地域おこし協力隊は国の制度でありまして、任期が3年間と決められておりますが、ミッションによっては3年間では全く短い場合もあります。任期後の定住につなげていくためには、期間が短いことが一番の課題だと思っています。

(三浦会長)

長野市として、あと1年、期間を設けるといったことはできないのでしょうか。

(増田地域・市民生活部長)

検討はしたのですが、今のところ検討段階に留まっています。

(柳沢委員)

資料2-1に「転出超過の状況が続いているが、計画策定時点2014年の転出超過人数574人が2017年には81人まで縮小」とあり、かなり減少していますが、その要因をどのように分析されていますでしょうか。

また、同じ資料の5ページには平成29年の実績として転出超過が234人と記載されていますが、それとの違いを教えてくださいませんか。

(事務局)

最初の質問につきまして、要因は正直なところ分からないのですが、長野県自体が全国的に見て移住先として一番人気があり、その県庁所在地であることが大きいのではないかと考えています。

2点目の質問につきましては、年齢区分が異なっておりまして、5ページは15～34歳のみの数字となっています。

(柳沢委員)

もう少し踏み込んで、どういう職種の人がどういう理由で転出したかをお聞きいただくと、どういうことを行えば転出を抑えられるのかが分かるのではないのでしょうか。

(事務局)

検討させていただきます。

(三浦会長)

今後どのようなことに力を入れていけばよろしいのでしょうか。

(事務局)

委員の皆様のおっしゃるとおり、子どもや女性に係る施策に市としてこれだけ力を入れている、と見えるようにしていくことが一番ではないかと考えております。

4 その他

5 市長あいさつ

(三浦会長)

本日の議事は以上でございますが、総合計画審議会をこのメンバーで開催するのは今回が最後となります。この4年間、第五次総合計画の策定に携わったご感想や、今後の計画策定に関するご意見等、何でも結構ですので、全員の方に一言ずつご発言いただきたいと思っております。なお、時間の都合により、恐れ入りますが、お一人3分程度でお願いいたします。

(藤森委員)

未来カフェには多くの方が集まり、計画が市民に浸透するためにはそうした企画が必要であることを実感しました。現在、どの程度の方が総合計画や市の予算について知っているのかが気になっています。

先日、県外・県内の友だちに信州新町のジンギスカンを紹介したところ、「長野市で

ジンギスカンを味わえるのか」ととても喜ばれました。大岡の道祖神やアルプスの見える景色、鬼無里の造り屋台も廻ったのですが、当然知っているであろうと思っていたことに驚かれ、愕然としました。もっとメディアやネットなど、いろいろな手段で長野市の良さを話題にしていけないといけないと思います。

人口減少や少子化は何十年も前から予測されていたことだと思いますが、安心して子どものいる家庭を持ちたいと願う人に対する対策がないまま推移してしまったのではないのでしょうか。

長野市の全職員が総合計画の目指す姿を理解して日々の業務を行うことが大切であると思っています。自分の仕事は何を目標としているのかを考えるだけで、計画の推進が変わってくるのではないのでしょうか。また、20年後を想定しながらアイデアを産み出していくことや、優先順位付けが大事になると考えます。

成果は数値で表すしかないと思いますし、数値が上がることで達成する項目もありますが、そうでない部分も大事に考えていけたらと思います。「幸せ実感都市」という言葉を意外と市の職員の皆さんは知らないのですが、数値では見えない満足度が数値に反映されてくるようになって初めて「幸せ実感都市」が実現できるのではないのでしょうか。

(本間委員)

計画自体は完成度が高いものになったと思っています。「幸せ実感都市ながの」というフレーズの「実感」を、これから皆で共有できればいいと思います。

時代の変化が非常に速く、今までの常識が常識ではなくなる時代がこれから始まると言われています。過去を踏襲するだけでなく、いろいろな手段を考えていかなければなりません。

「人生100年」と言われている中、総合計画とは別に、これから20年先、30年先、50年先の長野市のビジョンを持たないといけないと感じています。20年先、30年先を担うのは今の若者ですので、若者が中心になって活躍できる長野市を作っていただきたいと思っています。

(増山委員)

総合戦略に関して、東京への一極集中や人口減少問題は、本来国が主体となって取り組むべきものという思いが強くあることから、総合戦略については当初から懐疑的な見方をしておりました。市としても国から策定を求められていることは理解していますが、人口減少対策は日本全体の人口を増やさないと解決できない問題でありますので、これだけでいいのかな、と感じたところです。もっと国が危機感を持つべきではないのでしょうか。

また、介護事業者の立場から申し上げますと、介護人材の確保に危機感を持っています。介護職の離職率が15.1パーセントと報じられていました。民間は景気がいいので、

どうしても介護業界に人が集まらない現状にあります。一刻を争っている状況ですので、ぜひ実効性のある事業に取り組んでいただきたいと思います。

(三浦会長)

皆様からご意見をいただいているところですが、時間の都合がございますので、ここで、加藤市長からご挨拶をいただきたいと思います。

(事務局)

委員の皆様のご退任に当たり、市長から挨拶を申し上げます。

(加藤市長)

総合計画審議会の委員の皆様におかれましては、平成 26 年 9 月 5 日に就任いただいて以来、2 期 4 年間にわたり、第五次総合計画をはじめ、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、また計画策定後の進捗管理にご尽力いただき、心から御礼申し上げます。

第五次総合計画策定に関しましては、平成 27 年 9 月 10 日に諮問を申し上げ、平成 29 年 2 月 10 日に答申をいただくまでの間、三浦会長を中心に 9 回にわたり審議会で精力的にご審議をいただきました。また、審議会の下部組織である各作業部会でも、それぞれ 10 回以上熱心に議論をいただくなど、多大なご協力をいただきました。

第五次総合計画を平成 29 年度から無事スタートすることができましたのも、皆様のご熱心なご審議の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

今後も、本日の議事の中でご説明申し上げましたとおり、PDCA サイクルにより検証・評価・改善を図りながら、総合計画でまちの将来像として掲げている「幸せ実感都市『ながの』」の実現に向け、全力で取り組んでまいり所存でございます。

また、総合戦略につきましては、5 か年の計画期間の折り返しを過ぎたことから、中間評価を行ったところでございます。本市ではこの数年、転出超過の人数が縮小してきており、この流れを後退させないよう、「カムバック to ながの」を合言葉に若者の U ターン就職の環境づくりに一層積極的に取り組んでまいります。人口の社会増減について、2020 年に移動均衡を達成するよう努めてまいりたいと考えております。

4 年間にわたり、本当にありがとうございました。皆様方におかれましては、本審議会の委員を退任された後も、本市の発展のため、各々の立場からご指導いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆様方の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

(事務局)

大変恐れ入りますが、市長はこの後、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

それでは、再び三浦会長、進行をよろしくお願いいたします。

(柳沢委員)

私は都市整備分野で計画づくりに携わってきました。本分野は、社会活動や人の生活の基盤になる部分の整備であり、基本構想の「まちづくりの基本方針」の2番目、持続可能なまちづくりの推進に強く関連していると認識しています。今日の報告を聞いて、各施策とも目標に向かって少しずつでも進んでいるということが分かりました。

総合計画の策定と同時に、各担当課では都市マスタープランや立地適正化、公共交通網計画の策定を行っております。特に都市政策課の関係では、3、4年前から、中心市街地の人や車の流れ、どうやったら人に来てもらって中心市街地が活性化し都市の核ができるか、調査分析をさせていただきました。毎年調査をして都市政策課の方に結果を見てもらいながら、今後どうしていったらいいのかを検討しましたが、いい経験をさせていただきました。

公共交通網については、中山間地の生活交通をどうしていったらいいのかということで、モデル事業にも携わらせていただきました。交通政策課の方と地元に入って、細かく調査をいたしました。現在は、実際に運行をした後の検証と改善を行っていますが、我々が考えて作った路線やダイヤをどうやったらいろいろな方に使っていただけるか、地元の方が考えていただけるようになったのが大きいと思っています。総合計画で「オールながの」を掲げておりますので、市が与えるのではなく、地元の方も一緒になって本気で考えていかなければならないと思います。今までは住民のためと思って与えたサービスでも住民にはあまり知られていなかったものが、地元の方に浸透し、自分たちで守っていこうという動きになりました。今後も協力していきたいと考えております。

最後に、移住定住という言葉、もちろん定住してもらうのはいいことですが、人口減少、少子・高齢化の中では、定住する集落が広がってしまったらどうやってもサービスが行き渡らないことから、立地適正化の中で「居住誘導地域」を設けています。ぜひとも、その計画と連携させた形で移住定住を考えていただきたいです。各政策に3本も横串を刺していますので、ぜひとも連携して取り組んでいただきたいと思います。

(山浦委員)

企業を経営していますが、女性の多い社内で、子育てや介護などテーマを決めてグループ討論を行ったところ、非常にいい提案がたくさん出ました。そういう声をもっとひろっていかないといけないと思います。「幸せ実感都市」を目指すためにどんな問題があるのか、アンケートだけでなく、我々企業に対してもう一度声を聴き直していただきたいです。

(山口委員)

私の住む鬼無里地区は長野市に合併して 10 数年たちますが、その間、非常に人口減少が激しくなり、高齢化が進んでいます。中山間地域、過疎地のことを施策に反映していただきたいという思いで、これまで頑張ってきました。

鬼無里では、小・中学校合わせて 50 人くらいしか子どもがいません。学校の存続が危ぶまれる中、地域で検討した結果、長野市では初めての試みとして、小中一貫教育、また特認校（注 通学区域外からの就学が可能な学校）として、昨年度から発足しました。地域が学校と一緒に子どもたちのことを考えるのが特色となっています。すぐに成果が出るわけではありませんが、鬼無里の学校に子どもたちが来てもらえるよう取り組んでまいります。

（滝沢委員）

市民一人ひとりの生活している環境や価値観が違う中、満足度を上げるのは非常に難しいと思っておりますが、今回の中間評価の中で出された課題を一つずつ解決し続けていくしかないと考えています。観光で言えば発信し続ける、誘客し続ける、これで大きく伸びることはあまりないかもしれませんが、後々響いてくると思います。継続することで、一人でも多くの方が実感していただければと思います。

（白石委員）

第五次総合計画が出来上がって私が一番期待をしたのは、三つの重点テーマでありまして、分野横断的な取組で組織に横串を刺すことで、市民の大きなストレスの一つである縦割りが解消され、いろいろな取組が進むのではないかと期待しておりましたが、ちょっと期待はずれでした。

今回の資料でも、重点テーマそのものについての検証がありませんでした。前回の審議会でも発言しましたが、これは無理もない話でありまして、三つの重点テーマのまとめ役、司令塔がいません。ぜひ、第六次（総合計画）がもしございましたら、推進組織そのものをきちんと考えていただく必要があると考えています。

担当しました産業経済分野につきまして具体的な提案をします。平成 29 年度、アンケート指標（環境や体制に関する評価）で最も実績値の高かった指標は「りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である」でありましたが、ぶどうですと、皮ごと種無しで食べられる品種としてシャインマスカットとナガノパープルがあります。シャインマスカットは中野市が全国 1 位の生産量でマスコミの露出も多く、ナガノパープルは須坂市が生産量全国 1 位です。これまで、赤いぶどうで皮ごと食べられる品種がなかったのですが、このたびできました。まだ名前がついていません。ぜひ旗を振っていただいて、緑は中野市、黒は須坂市、赤は長野市、ということで、皮ごと種無しで食べられるぶどうを北信地域から全国に発信していただきたいと思います。

(金井委員)

第五次総合計画を作る際、どういう長野市にしたいのか、皆で3回くらいかけて議論し、まちの将来像を「幸せ実感都市」に決めました。私は、「幸せ実感都市」にすべての施策が結びつく、これを実現するために市役所の施策や方針、市民が突き進むという思いを強く持っていました。しかし、何回も意見したのですが、どうもそういう方向にいかなかったのが、自分自身情けなく、悔やんでおります。

市民や行政、企業が一体となって「幸せ実感都市」を情報発信できているのか、市役所職員であれば、今やっている自分の仕事が「幸せ実感都市」の実現にどう結びつくかを振り返りながら進めているのか、非常に気にしています。

私は環境分野を担当していましたが、例えば「環境のことなら長野に行って教わってこい」と言われるぐらいに、一つでも二つでも情報発信をしたいという思いをずっと抱いていました。まだ前期基本計画期間は半分残っていますので、各施策でぜひそういう姿を作っていただきたいと思います。

国や県との横並びではなく、長野市として市民のために本当に必要なことであれば、国でも県でも動かしてほしい、それが長野らしさ、「幸せ実感都市」の発信につながると確信をしております。全国に誇れる施策を自分たちが作ったという姿になってもらいたいです。

(碓井委員)

子育てについて、国も、質の向上というよりは、子どものことを横に置いたサービス、女性が働くためにというだけの方向に向かっているようで、とても不安を感じています。本当に「幸せを実感」するためには、一つの家だけではもう補えず、いかに周りが支えていくかという世の中になっておりまして、長野市の独自性が発揮しやすいシステムになると良いと思います。4年前の会議では、長野の良さを再確認することからスタートしたかと思いますが、良さをもう一度再確認しつつ、市民レベルで発揮できることが求められます。

そのためには、量だけの検証だけでなく、「質」の検証もぜひしていただきたいと思っています。私どももそのために協力できればと思っております。

県外の知人が長野市を訪れた際、「長野らしさが見当たらない」と言っていました。長野駅を降りて食堂に入ったときにもっと長野らしいものを食べたいとか、「これが長野らしさだ」というのをもっと引き出さないとまったくないとアドバイスをいただきました。長野市民だけでなく、長野を訪れた方にも長野の良さを実感してもらうことが大切だと思いました。

(上野委員)

30歳代の代表として、駅前の店主として、普通の市民の意見を言えればと思いなが

ら参加してきました。

人口減少、少子・高齢化は、これまで世界レベルで経験したことのない局面に今後突入します。また、全国どの市町村も同じ問題を抱えています。であれば、他にない大胆な、長野カラーを打ち出した解決策を打ち出さないといけないのではないのでしょうか。隣の芝生を見て、あれがいいからうちでもやろう、では実はすでに手遅れであり、長野がリードしていく気持ちがないといけないのではないのでしょうか。それくらいやらないと、目標は達成できない気がします。

「幸せ実感都市」の「幸せ」についてですが、追求していくと青天井になってしまいますが、市として大切なことは、「このまちに住んでいて不幸だ」と思う人をゼロにすることではないのでしょうか。このまちで、母子家庭や貧困家庭の問題を抱えていることを感じていますが、そうしたことを早急に解決しないと、文言だけのものになってしまうと感じています。

これからもできれば長野に住み続け、私なりにこのまちを面白く楽しくしていきたいと思っています。

(園原副会長)

保健福祉分野につきまして、アンケート指標の「健康づくりに継続的に取り組んでいる」市民の割合が6パーセント増加しており、良い方向に進んでいると思っております。昨年度、糖尿病の重症化予防のシンポジウムが若里市民文化ホールで開催されましたが、そうしたイベントを継続的に実施することで、市民に分かりやすく伝わり、指標の目標達成につながるのではないかと感じています。

(三浦会長)

子育て施策については、小学校に入ってから必要であり、息の長い取組であります。そのところを総合計画の中でどう盛り込んでいくかが大事だろうと思っています。

今年度、全国的に風水害が発生しておりますが、長野市は幸い被害が少ない状況でした。長野市の良さとして総合的に我々はどう考えていくかということが、これからの課題であります。

5年先、7年先を考え、地域をどうしていくのかを明確にしたビジョンを大事にしていていただきたいと思います。

6 閉会

(事務局)

長時間にわたりありがとうございました。以上をもちまして、本年度第2回の総合計画審議会を閉会いたします。皆様には4年間お世話になり、ありがとうございました。